

いのち ほのお

生命の炎

●発行所：東京ふれあい医療生活協同組合
〒114-0004 東京都北区堀船 3-31-15
電話 (03) 3911-3630

●編集：「生命の炎」編集委員会

生協の現況(2019年5月末日現在)
組合員数=17,128名 出資金総額=519,203千円

http://www.fureaico-op.com

2019年 8月号 No.483

東京ふれあい医療生協



理事会提案風景

第56回通常総代会 賛成多数で全議案 承認される

来年設立50周年に向けて 「わくわく5カ年計画」 2年目スタート

総代会開催報告

2019年6月23日総代会が開催されました。総代会は東京ふれあい医療生協の一年間の取り組みを報告することにもこれからの経営方針を決定する重要な場です。今総代会においては、多くの質問と多くの意見を総代の皆様よりい

ただきながら、経営方針の決定、役員の見直しや人事の決定等がなされました。地域の組合員の意見を取り入れながら、より一層地域に貢献できる組織としての運営を進めていきます。

経営方針

東京ふれあい医療生協は2019年度において、訪問診療強化、さらなる連携の強化を行います。介護分野においては、人員補充を進めるとともに各種事業の運営強化を図り、あわせて経営改善と統合を図ります。理事会のもと、経営改善及び抜本的改革を進め、法人経営の安定化を図ってまいります。



選任される役員の方

一人ひとりを大切に、健康健全な組織、まじつくりを行います。①東京ふれあい医療生協が未来につながる健全な経営となるよう改善を行います。②健康について気軽に相談できる環境をつくりたいです。③一人ひとりの思いを大切に、健康健全なまじつくりを行います。④誰かが困っている時に手をのぼすことのできる、ふれあいのある組織をつくりたいです。

これらを実現するために以下のようなおことを推進していきます。

①持続可能な組織であるために黒字経営を実現します。そのために全事業運営における抜本的見直しを含めた事業戦略及び各種契約等の見直しによる収益増、費用減を図ります。不採算事業につい

ては地域の声を聞きながら、縮小、休止、廃止を含めた抜本的改革を実施します。②地域と理事会、職場と理事会の関係強化に努めます。役員の役割、権限を強化にして機能的な理事会を目指します。あわせて理事会と組織改革を支える本部をつくらせます。

③「患者・利用者の顔がみえる」運営を通して「みちか」で、「あたたかい」外来診療をめざします。そのために、利用委員会と虹の声を大切に、診療所と患者組合員の距離を近づけます。また、診療日、予約制について検討し、わかりやすさを追求します。

新役員体制

以下の新役員体制で東京ふれあい医療生協を運営していきます。

④地域の「困った」を集め、事業に反映します。そのために、看護・介護・事務部門関係で外来窓口相談機能を強化します。看護師やその他職員が窓口で組合員の皆さんの相談に応えられる環境を整えます。⑤交流が健康をつくるという考えのもと、各種学習会、講演会を企画、実施をします。具体的には体操運動教室、歌声喫茶、脳いきいき教室、終活講座や新しい取り組みを増やし、地域に健康づくりの「わ」をひろめます。⑥健康チェック・健診活用推進を通して自身の健康状態への理解を促します。⑦子どもサポート活動として子育て教室、メディアカレッジ、こども食堂に加え、格差の無い健康なまじつくりのために必要な新たな活動にチャレンジします。⑧健康まじつくりを通してこれまで以上に健康づくり、生協活動の普及に取り組みます。様々な参加団体を集め、まじつくりを盛り上げる事で、地域住民の参加者増加に取り組みます。新たな50年の第一歩となるよう地域の「わ」を最大限に広げます。



支部表彰

⑨地域の「夢」を集め、法人の活動、事業に反映します。50周年に向けて班会、座談会を開き地域から様々な意見を集めます。

採決結果

本人出席27名 出席193名(委任及び書面含)

2018年度事業活動報告と2019年度事業活動方針について 賛成193名 反対0名 保留0名
第2号議案 2018年度会計決算報告および損失金処理(案)の決定について 賛成193名 反対0名 保留0名
第3号議案 2019年度会計予算の決定について 賛成193名 反対0名 保留1名
第4号議案 任期満了に伴う役員選任について 賛成193名 反対0名 保留0名
第5号議案 2019年度役員報酬限度額の決定について 賛成193名 反対0名 保留0名
第6号議案 議案効力発生決議 賛成193名 反対0名 保留0名

(専務理事 百瀬)

健康づくり委員会

掲 示 板

全ブロック

●10月より健康チャレンジスタート
今年は、ウォーキングチャレンジ「若返れ!!血管年齢」の企画を委員会の中で準備しております。詳細につきましては、改めて掲載させていただきます。

荒川ブロック

●ふれあい粋、生き(いきいき)サロン「あつふる会」健康チェック
日時：8月8日(木) 午後1時30分～2時30分
場所：あつふる館(小台通り)

●西尾久東長寿会 健康チェック
8月はお休みです。

●ふれあい粋、生き(いきいき)サロン さくらサロン宮の前
日時：7月21日(水) 午後2時～3時
場所：宮の前診療所2階 さくらの部屋

宮の前 瓦版

歩こう会 (みやまなウォーカーズ)

日程：8月11日(日)
行先：葛飾区水元公園
集合：田端駅 9時

日程：9月8日(日)
行先：千駄ヶ谷周辺
集合：田端駅 9時

コープのなかま 荒川「コープカフェ」
8月はお休みです。

日時：9月12日(木) 午後1時30分～3時
場所：熊まなき堂(ハッピーモール熊野前中程)
テーマ：災害の避難場所
参加費：100円

事業所利用委員会 利用委員会 掲示板

東京ふれあい医療生協理事会の基に、各診療所には「事業所利用委員会」が設置されています。構成メンバーは、支部や各委員会から選出された診療所を利用されている組合員と担当理事・職員です。

委員会は診療所への苦情の対応を行うだけではなく、各診療所の運営全般の課題

者満足度アンケート)を実施し、利用される皆さんに最適な医療を受診いただくための、様々な取り組みも行っています。

虹の箱(投書箱)はご存知でしょうか?

「虹の箱」は、診療所を利用されていて、気づいた点やご意見、苦情やお褒めの

各診療所の「虹の箱」(投書箱)設置場所のご案内

梶原診療所
玄関、2F階段
宮の前診療所
玄関、トイレ
ふれあいファミリークリニック
男トイレ、女子トイレ
(広報委員会 天沼記)

受付 窓口から皆さんへ

昨年の猛暑から一転、今年は冷夏の見込みとのこと。七月は寒い日々が続く体調を崩す方も多かったのではないのでしょうか。今から二十六年前にも夏前から寒い日が続き、作物が実らない「平成の米騒動」と呼ばれた年がありました。今年が令和の米騒動とならないよう、願うばかりです。

話しは変わりますが、梶原診療所(北区)・宮の前診療所(荒川区)・ふれあいファミリークリニック(足立区)にて区民健診の予約を承っております。組合員健診をはじめとした一般の健診も行っているため、予約が混み合う前にお問い合わせをいただく事をオススメいたします。

(梶原診療所 後藤)

梶原 de みちあそび

懐かしい遊びがいっぱい!

日時 8月24日(土) ※雨天中止

時間 15時～18時まで

場所 梶原商店街内

主催 梶原銀座商店街振興組合

共催 地域のみなさま

協力 一般社団法人TOKYO PLAY

子どももおとなも一緒に楽しもう!!

みぞ遊び、懐かしい遊びがいっぱい!

日時：8月24日(土) ※雨天中止
時間：15時～18時まで
場所：梶原商店街内
主催：梶原銀座商店街振興組合

ふれあいファミリークリニック 求人

60歳以上歓迎 未経験OK の院内清掃

ふれあいファミリークリニックの建物内をお掃除してくださる方をお探しています。医療器具等の清掃をお願いすることはありませんので、ご安心ください。楽しく、仲良くモットーの職場です。あなたの時間を、少しでもクリニックにお貸しいただけませんか?

給与 時給制+交通費 規定内支給/年齢不問

場所 ふれあいファミリークリニック 院内

勤務日数 週4日以上希望(3日以下も応相談)

時間 12:00～14:00 (応相談)

交通 王子駅から都バス……………15分程度
田端駅から都バス……………20分程度
都電荒川線 小台駅から都バス…10分程度

ご連絡は 03-6908-4330

ふれあいファミリークリニック 受付まで ご応募お待ちしております。

知って得する

ふれあいファミリークリニック所長 **渡邊 仁**

<予防医療のススメ>

はじめまして。4月からふれあいファミリークリニック・梶原診療所に赴任した渡邊 仁(わたなべ ひとし)と申します。ふれあいファミリークリニック・梶原診療所での外来・訪問診療を中心に診療を行って参ります。よろしくお願ひ致します。

さて、今回は“予防医療のススメ”というテーマでお話しをさせて頂きたいと思ひます。皆さまは“予防医療”というどどんなイメージでしょうか?健康診断・人間ドック、秋から冬頃にかけて接種するインフルエンザワクチンなどのイメージでしょうか。困っている症状の治療と異なり、予防医療は病気になるようにするという面があり、なかなか患者さんご自身では効果や必要性を感じにくいかもしれません。

予防医療には大きく3つに分けられており、①生活習慣の改善を通して、健康を維持し、

予防接種を通して病気を未然に防ぐこと(1次予防)、②定期健診や検査などを通して病気の早期発見・早期治療に取り組むこと(2次予防)、③病気になるっても適切な治療によって増悪防止に努め、リハビリテーションによって病気の回復・再発予防に努めること(3次予防)に分けられます。インフルエンザワクチンなどの予防接種は①1次予防、健康診断・人間ドックなどは②2次予防に該当します。

予防接種としては乳幼児の予防接種以外のワクチンとしては、肺炎球菌ワクチン・インフルエンザワクチン・破傷風ワクチン・B型肝炎ワクチン・HPVワクチン(ヒトパピローマウイルスワクチン)・帯状疱疹ワクチンなどがあります。がん検診としては大腸がん健診・胃がん健診・乳がん健診・子宮がん健診・肺がん健診などが一般的に行われています。また各自治会・会社で行われている健康診断では高血圧・肥満・脂血症・

糖尿病の早期発見を目指します。これらの生活習慣病は一般的には無症状であることが多いですが、適切に治療を行うことで、将来の脳卒中・心筋梗塞などの治療を予防することを目指します。また節度を持った飲酒、禁煙も全ての方におすすめてできる非常に重要な予防医療です。前号で渡辺章先生がお話された骨粗鬆症検査も重要な予防医療の一つです。

今回予防医療の中で主だったものを具体的に上げましたが、これらを全ての方にオススメするのではなく、ご年齢や持病、これまでの生活習慣・生活背景によってオススメできるものは異なります。ご自身にはどんな予防医療が適切か是非医師と相談して頂き、皆様の健康増進に役立てて頂きたいと思ひます。

病気を治療することももちろん重要ですが、病気を未然に防ぎ、早期発見によって、より患者さんにとって負担の少ない治療で良くなれば、それは素晴らしいことではないでしょうか。是非、皆様が今一度“予防医療”について考えて頂く機会になれば幸いです。

歌声喫茶「ふれあい」1周年に84名が集う♪

1年で162人が参加

歌声喫茶「ふれあい」がスタートして6月で1年が経過しました。6月29日に行われた「1周年記念」には今まで最高の84名の参加があり会場のふれあいセンターに参加者の歌声が響き渡りました。この1年間で162人の方が参加されました。年齢は50歳代から90歳代まで幅広く、1960年代に全国に広がった「歌声喫茶」流行の頃に青春時代を過ごした60代70代の方が半分以上を占めています。

懐かしい歌を皆で合唱

曲は子供の頃歌った「童謡」「唱歌」あの頃の歌謡曲、青春ソング、フォーク

ソングそしてロシア民謡、ヨーロッパ民謡、時には演歌やシャンソンも歌い見ながら思い出しながら皆で楽しく歌っています。世話人会で毎回歌集を発行し歌った歌は200曲を超えました。歌の伴奏はハモニカとギターと太鼓の生演奏で(時にカラオケを利用)伴奏者も少しずつ増えてきました。組合員さんの思いの場、交流の場、そして歌を通しての健康づくりの場としてこれからも毎月1回土曜に開催されます。歌の好きな方ぜひ参加して下さい。

次回 8月24日 午後4時～6時

「歌声喫茶「ふれあい」」世話人会代表 西本

新入職員生協基礎研修会に参加して



(中央)生協ヘルスコープおおさかで理事を務めている吉田さん(右)生協ヘルスコープおおさかの新入職員 組合員活動部の田中くん

7月1日(月)、2日(火)の2日間、大阪で行われた日本医療福祉生協同組合連合会主催の新入職員生協基礎研修会に、組織部の本間、総務部の並木、宮の前診療所医事課の蘭田の3名が参加しました。全国の

1日目は医療福祉生協についての学習講演を聞いた後、10グループに分かれ、「班会メニューをつくらう」というグループワークに取り組みました。新しい班を作るにあたって、グループのメンバー全員でアイディアを出し合い、1つの案に絞ってからは詳細を話し合いました。

2日目の前半に各グループで作った班会の発表をしました。例えば組合員さんと地域の子供が朝の時間帯にラジオ体操や朝食を共にする「朝活班」や、若い方から年

配の方をターゲットにした「婚活班」など、斬新で独創的なアイディアに大変驚きました。

後半は大阪の医療福祉生協で活躍する組合員さんと交流会がありました。生協ヘルスコープおおさかで理事を務めている吉田一江さんは、看護師として自分にも患者さんにも厳しく働いてきた過去を振り返り、組合員さんに優しくしようという思いで活動に励んでいるそうです。その風貌や穏やかな口調から伝わる優しい人柄にとても癒されました。

今回の研修を通して、他医療福祉生協の新入職員や組合員さんと交流を図れたことは何よりの財産だと感じています。全国で奮闘する同期の存在を感じながら、日々の業務によりひたむきに取り組んで参ります。(組織部 本間)



在宅の窓 Vol.109

昨年末、私は10年間ケアマネとして勤務した介護センターを定年退職した。その後は何か簡単な仕事をしながら、のんびりと暮らしたいと思っていた。ところがその矢先に、主人が病で倒れ要介護状態となってしまった。私は、介護サービスで支援する立場から受ける側へと逆転した。長年介護の仕事に携わり、それなりに知識と経験があったにも関わらず、いざ我が身のこととなると、情けないことに、大いに焦り不安も大きかった。

そして、思ったことは「私はこれまで、利用者さんやそのご家族連の、不安で心細い気持ちを充分理解し寄り添うことができていたのだろうか」という反省だった。残念ながら自信を持って「イエス」とは言えない。

現在、私は介護相談センターに事務のパートとして復帰させていた。上司や仲間達の温かい取り回しに感謝している。新人のケアマネも入り、先輩としてのアドバイスを求められることも多い。ケアマネと利用者両方の経験を後輩達に伝えたい。彼らが頼りがいのある、心優しいケアマネとして活躍して欲しいと切に願っている。(介護相談センター 高橋)

キッズ メディカル

vol.82

同時接種の必要性・安全性

その5

同時に受けたワクチンに生ワクチンが含まれていれば4週間後の同日曜日、不活化ワクチンだけなら1週間後の同日曜日からの接種ができます。例えば、ヒブとプレナー不活化ワクチンだけなら1週間後から、生ワクチンのMRと不活化ワクチンのプレナーの同時接種なら次の接種まで4週間空ける必要があります。また同じワクチン同士では接種間隔がそれぞれ決まっています(四種混合やヒブワクチンは、最短3週間、プレナーでは最短4週間など)ので、かかりつけ医とよく相談してください。

残念ながら、今まで日本だけが予防接種の習慣がなかったで、「絶対に同時接種は行わない」という医師もいます。また、「保護者の方に説明するのが面倒」という医師もいます。基本的には厚生労働省の「子どもをVPD(※)から守ろう」という姿勢がはっきりしないからです。

※VPD:ワクチンで防げる病気 (小児科医 倉信)

新コーナー あじやましまーす



左から 阿部理事、本間職員、遠藤理事

「このコーナーを始めるにあたり、説明と協力をお願いをさせていただきました。東京ふれあい医療生協に関する事業所支部 委員会、班会 組合員 職員の方々に訪問し紹介させていただきました。みなさんの活動を広く知ってもらいながら、皆さんの活動が幸いとおもいます。みなさんのところに「あじやま」させていたいただきたいと心から願ひします。

記念すべき第1回目は、当生協の副理事長であり、梶原診療所の外来のまとめ役として活躍してくださっている渡邊章先生にインタビューしました!

Q:梶原診療所に来てどれくらい経ちましたか?

A:梶原診療所に来てからは8年目に突入しました。医者になつてからは16年くらい経ちましたね。

Q:どのような想いで梶原診療所に来られたのですか?

A:以前は整形外科として主に救急で搬送された患者さんを診ていましたが、一族が医者ということもあり、なにより父親が地域医療の整形外科医をされていて。地域の人々に触れ合いたい、子どもからお年寄りまで診ることが出来る昔ながらの町医



(ボウリング班会にて)渡邊章先生

Q:職員の働きぶりはどうですか?何か要望などありますか?

A:少ない人数の中でありながら頑張り続けてくれていると思います。ただ、もう少し落ち着いた環境で仕事が出来ればよいと思います。

Q:最後に今後の抱負をお願いします。

A:梶原診療所についてはこれからも地域の中心になれる診療所としてやっていきたいです。個人としては、偉そうにならずいつまでも町医者らしさを忘れないようにしたいです。

2019年度 理事会 から

第101回 理事会
開催日 6月23日

2019年度 第2019年度役員構成

理事:土屋 悟史、小山 政男、渡邊 章、百瀬 文也、西本 明、倉信 均、泉 秀子、山根 康寛、目々 澤 宏治、小暮 和歌子、阿部 宏子、石母田 克美、池田 文子、石 夕起子、井上 直人、薄井 哲夫、遠藤 弘子、鹿山 澄子、篠崎 悦雄、野島 美幸、渡辺 勝子、渡辺 富美子、赤松 實、川村 康博

監事:長谷川 玄司、信坂 福雄、小野塚 芳郎

②法人三役の決定

代表理事 土屋 悟史

副理事長 渡邊 章

副理事長 小山 政男

専務理事 百瀬 文也

2019年度 第2019年度 第2019年度 第2019年度 第2019年度

開催日 7月8日

①4・5月度経営状況について

4月収入11,252,2円

5月収入10,988,2円

累計経常利益▲1,087万円

②人事関係 採用(常勤)相良圭亮(梶原診療所医事課)、高橋朋子(訪問看護)、三浦柚華(宮の前診療所看護師)、有本泰助(ほほえみヘルパーステーション)

③経営検討 ④賞与決定

連載 25 人の「わ」でまちづくり 生協の出番

「ふれあいクレド」チームより

「ダウン」と鈍い音がした。振り返ってみると男性が前向きに倒れ、松葉づえが転がっている。近くの中年男性が手をさしのばして、すべ抱き起そうとするが、男性は手を振り払い、躓いたブロックタイルを「このヤロー、このヤロー」と言いながら、何度もこぶしで叩いている。雑踏の中で倒れてしまった悔しさからなのかそれは理解できない。「無念」だったと思う。ほどなくして「通行人」と共に、「おぼちゃん」4人組も当然のように助けにはいる。1人は交番から警察官を2名連れてきて、状況を話している。「このタイルブロックは歪んで、浮いていたらね」「危ないんだよね」と。しばらくして両足障がいのある男性は立ち上がり、南北線の改札へ向かわれる。数分の出発であった。なんと、その1週間後には補修工事が完了していることに驚いた。通行人のあたたかい気持ちや原動力となって行政を動かしたのだ。目の前の不幸に目をそらす、手を差し伸べ、そして根本的な解決までつながったのだ。「街」をつくるもの「わ」があったのだ。

来年、東京ふれあい医療生協は50周年を迎える。この地域には人情やたすけあいの「わ」が相当量埋蔵されている。埋蔵された「わ」を活かし、明るいまちに変革する使命を東京ふれあい医療生協は担っている。活かすも殺すも役員職員の努力にかかっている。医療生協の出番、まちづくりの「わ」の出番!クレドの出番!

2018年 11月王子駅北口の出

来事であった(福田)

